開催報告

【関西支部】 秋季合同講演会

白 藤 立*

大阪市立大学工学研究科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

(2019 年 10 月 9 日受理)

Autumn Joint Lecture of Kansai Branches

Tatsuru SHIRAFUJI*

Osaka City University, Osaka 558-8585

(Received October 9, 2019)

(一社) 日本真空工業会関西支部と(公社) 日本表面真空学会関西支部の秋期合同講演会が、令和元年 9 月 25 日(14:30~17:20) にアートホテル大阪ベイタワー 22 階スカイバンケットイーストにて開催された。参加者数は 61 名であった。本合同講演会は、真空工業会関西支部との合同開催ということもあり、学術や技術に関するテーマ 1 件と、産業界にとって重要な近年の社会動向に関連したテーマ 1 件で構成されている。こうした企画をしているため、本講演会は、研究者だけではなく、産業界でマネジメントを行っている方々にとっても有益な話を聞くことができる講演会となっている。また、学術・技術テーマについても、真空や表面にとらわれない広い視野で策定されており、今回は真空の真逆となる高圧がテーマになっている。今回の講演テーマと講演者は以下の通りである。

「超高圧合成法を活用した材料合成」

山田幾也先生(大阪府立大学)

「デジタル技術活用の現状と DX(デジタルトランスフォーメーション)の課題」

渡邊真治先生(大阪府立大学)

山田先生からは、超高圧とは? という定義から始まり、各種高圧発生方法や水素発生触媒を含む新規材料の超高圧合成に関するご講演を頂いた。また、生卵がゆで

Fig. 1. (color online). 講演会の様子

Fig. 2. (color online). 懇親会の様子

卵のようになる(味は生卵のまま)という面白い例や、超高圧ならではのヒヤリハット事例なども交えて頂き、大変興味ある講演内容であった。

渡邊先生からは、ここ数年で知られるようになり、産業界としても対応が迫られている DX(デジタルトランスフォーメーション)に関するご講演を頂いた。本講演では、DX に対する日本の対応が世界の中で大幅に出遅れていることが指摘された。また、その具体的原因も分析されており、産業界の方が今後の施策を練るための知見を得る貴重な機会となったと思われる。

17:40 からはスカイバンケットウエストにて懇親会が催され、日本真空工業会関西支部支部長の三島尚志氏(日立造船株式会社)、日本表面真空学会関西支部支部長鈴木基史教授(京都大学大学院工学研究科マイクロエンジニアリング専攻)による挨拶を頂いた後に、産業界と学界の交流が行われた。

最後に、講演を頂いた山田先生、渡邊先生、ならびに本講演会を担当された日本真空工業会関西支部と日本表面真空学会関西支部の幹事の方々のご尽力に感謝の意を表す。

* E-mail : shirafuji@osaka-cu.ac.jp